

第9回市立中学校のあり方検討委員会 会議録（概要）

- 1 日時 令和5年6月26日（月）午後7時00分～午後8時40分
- 2 会場 十日町市役所川西支所4階 第1研修室
- 3 出席者
 - (1) 委員 16名
 - (2) 事務局 6名 渡辺教育長、鈴木教育文化部長、玉村教育総務課長、細木学校教育課長、藤田指導管理主事、山岸教育総務課長補佐

4 会議概要

- (1) 開会あいさつ（雲尾委員長）
- (2) 議事

以下のとおり審議が行われた。

発言者	発言概要
① 検討委員会の会議日程及び内容等について（令和5年6月26日現在）	
事務局	（資料に基づき説明） （質問等なし）
② 第8回検討委員会学校視察（湯沢学園・八海中学校・まつのやま学園）の振り返り	
事務局	（資料に基づき説明、参加した委員に感想を求める）
委員	中学校の在り方という視点から見させてもらったときに、3校が統合した八海中学校が、地区の合意をきちんと得た上での進め方だったということと、統合は新たな形での学校名や校歌をつくるという八海中学校の進め方は参考にしたいと感じた。
委員	南魚沼は中学校を統合し生徒数を確保しているが、さらにもう一段進めようとしている。新たな人口シミュレーションを見ると、以前の予測よりもさらに人口減少が進んでおり、危機感を持って取り組んでいるところに共感した。
委員	湯沢学園は、全部の敷地内に保育園から中学校までが入っていて、保育園の子供たちも年長から小学校の机に慣れさせるようにしている。中学校の先生も小学校の授業を見に行くなど、引継ぎをしながら上の学年に進んでおり、中1ギャップなどがないようスムーズに移行できる形を取っていることはすごくいいことだと思った。
委員	全く真新しいものを一から建てて、そこに子供たちが通う場合と、既存のものを利用した形で子供たちが一つのところへ通う場合、それぞれにメリット、デメリットがたくさんあるということを感じた。どちらにせよ、学校がなくなった地域にメリットがあるということを先生がおっしゃっていたのは確かにそうだと感じたので、通う子供たちにも通わせている親にも地

域にもメリットがたくさんあることができるといいと感じた。

委員 湯沢学園と八海中学校にも今後の児童生徒数の推移を第一に聞いてきた。十日町と比べると、十日町の減り方が極端だと感じた。十日町が極端に減ることについて考えて行く必要があると思った。

十日町の令和4年度の出生数は全市で200人ぐらいで、それを基準に考えなくてはいけない。これから増えることは考えられないので、そういうことを頭に入れて検討していかなくてはならない。

委員 自分は車でまつのやま学園へ伺ったが、市中心部からとても遠く、学校自体、教育環境はとてもいいが、環境は閉塞的で一部の部活しか外部との交流がないように感じた。まつのやま学園から出た後の子供たちのことを考えると、高1ギャップが心配になった。

委員 総じて先生方や教育委員会の方の話を聞いたが、自分としては地域の人たちともう少し話せる機会があればいいかと感じた。

ただ、南魚沼市の担当の方に統廃合に当たって最初に考えたことは何かと聞いたとき、「地域の意向を最初に考えた」ということを言ってくれた。これは今我々十日町市が考えていることと、何かかけ離れているような気がする。もっと真剣に地域を含んだ形で、統廃合を考えていかなければと感じた。

委員 湯沢学園を見させてもらい、子供が多く恐らく性格も性質もいろいろ違うと思うが、子供が増えると子供たちの人間関係ももっと学べるのかなというところを想像できた。

あと学校から家が遠くなると、子供たちはスクールバスで通えたとしても、PTAが発足したときに、親がどれだけそこに参加できるかなという、参加の仕方も今までと変わるとは思う。そこを想像したときに、これまた子供たちのためにということで協力はしてもらえと思うが、この十日町でどれぐらいの規模の統合が必要とされるか今想像はつかないが、勉強になった。

委員 私は今回の視察で、子供の姿とか生徒の姿というのをどこかで見たいなと思った。統合して楽しかった、うれしかった、友達がたくさんできてよかったという子供の声とか、中学生になって小学生の子供に教えることができている学校だとか、どこかで何かよかったという子供の声が聞きたかった。

委員 3校全て見させていただいたが、一番感じたのは、八海中学校の統合の仕方であり、地域が主体となって話し合いをして決定したという、そこは見習うべきと思った。

また、2つの小中一貫校を見て、小中一貫というのは中1ギャップが極めて是正されることはみんなが理解してもらえていると思う。

ただ偏らないような考え方をしっかりと皆さん方で持つことで、中1ギヤップを減らすことが可能であるとしたら、やはり考えていくべきだと新たに知らされた感じであった。それらも含めて、どういうものが一番妥当なのか、どういう考え方をその中に入れて、できるだけ子供たちの教育環境がよくなるような仕組みということも含めて、考えてみる必要があると改めて思った。

③ 部活動の取組について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 部活が3年生の引退が大体6月前後の地区大会で引退ということが多いと思うが、もしスポーツクラブに所属していて、部活とスポーツクラブの競技が一緒だとすると、部活は引退したけど、引退後もスポーツクラブの主催か何かで大会があった場合、学校の部活で本当の引退なのか、引退の線引きというのはどう考えなのか教えていただきたい。

事務局 そういったことも今後の検討材料になっていくと考えている。あくまで私見も入っているが、例えば中学校の部活は、3年生の地区大会が終了すると、もう引退という形で、夏以降はあまり活動がない部活がほとんどである。ただ、まだこの競技を続けたいという子は、クラブチームで続けていいと思うし、実際に引退してから高校までのつながりのためにクラブチームで続けるお子さんもいらっしゃる。なので、生徒さんによっては中学校でもう引退という方向でも、続けてやりたいという子もいてよいという、そこが選択できるというところがよさだと思う。

委員 現在の市内の中学校の部活動は全員参加か、それとも希望型か。

事務局 基本は希望制としているが、実際にはほぼ全ての子供たちが部活に関わっている。

委員 今説明のあった陸上とバスケットボールとソフトニスは、今年度から学校の部活動として土日は活動していないということか。

事務局 実際は両方動いているのが現状である。まだ移行期間であり、学校の部活動でも動いているし、クラブでも動いているという状況である。

委員 今子供が陸上競技に参加しているが、休日のクラブ活動は全部午後からやっている。今まで学校の部活だと土曜日は大体午前中であったが、これから暑くなる時期に、午後からの活動というのは心配であるが、何か対策はあるのか。

事務局 指導者の確保など、様々な今問題があると思っているが、子供たちの健康管理は重要な部分なので、熱中症など暑い時期のリスクを減少させることが課題だと考えている。

委員 大会の費用についてはばかにならない問題である。いろんな大会に参加するにあたり、後援会のほうから大部分のお金が出ている。自分のところの

学校だったら、その学校の後援会からお金が出せるが、各学校が集まって新しくチームをつくり大会に出る場合、そういった負担はどうするのかということもまだまだ話し合われていないままで、後援会は本当に戸惑っている。後援会としても子供たちの応援はしたいと思っているので、部活動の地域移行は慎重にお願いしたい。

委員長 そういった費用は生徒の自己負担という市町村もある。それもまた今後の検討課題である。

(3) その他

① 次回会議の開催日について

日程調整表の提出を依頼。後日、次回日程をお知らせする。

② その他

なし

(4) 閉 会